

■「柏市都市農業振興計画案」へのパブリックコメント実施結果

意見番号	意見	市の考え方
1	<p>様々な写真が併せて掲載されており、本計画についてイメージしやすく、わかりやすいものとなっている。</p> <p>しかしながら、計画書で掲載されている写真は、市内であるものとそうでないものが混在している。柏市の現状等について市民の理解を深めるためにも、柏市で撮影されたものについては出典等を明記されてはいかかがか。</p> <p>また、年号が和暦や西暦になっていたり、語句について、誤字・脱字や表記ゆれがある。</p>	<p>掲載している写真につきましては、施策や事業のイメージが伝わることを重視し、一部本市以外のものも使用しております。</p> <p>ご意見いただきました出典等の明記につきましては、写真によって出展記載の有無が混在し、統一性が損なわれることから、検討の結果、記載しないこととさせていただきます。</p> <p>その他、ご指摘いただいた誤字・脱字や表記ゆれ等につきましては、修正させていただきます。</p> <p>ご意見をいただき、ありがとうございました。</p>
2	<p>国は、2020年10月に「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、「グリーン成長戦略」として、地域資源の最大活用、化学農薬・化学肥料や化石燃料の使用の抑制を通じた環境負荷の軽減を図り、カーボンニュートラルに加え、災害や温暖化に強い持続的な食料システムの構築が急務であるとしている。</p> <p>現在、柏市では、造園業者も一般家庭からも草木ゴミ、剪定ごみは北部・南部クリーンセンターで受け入れ焼却処理されており、多くの水田では稲わらをすきこんでいる。また、資源化率は、国・県の目標値を下回っているとのことである。</p> <p>こうしたことから草木ゴミ、剪定ごみの占める位置はどこに置くべきなのか、また、水田での稲わらや残渣のすきこみが常態化され、温室効果ガスであるメタンの発生を抑制されることなく、今後も放置されるのかが課題である。</p> <p>施肥を条件として土壌の炭素貯留はかなり促進され、大気中のCO<sub>2</sub>を削減すること（土壌が吸収）が可能であることが明らかになっており、減り続ける土壌炭素を施肥という形で回復させるならば大気中CO<sub>2</sub>の大きな削減に繋がることから、柏市での堆肥センターの設立を強く求めます。</p>	<p>ご意見いただきましたCO<sub>2</sub>削減の取組みとして、柏市では現在、国の補助制度を活用し、緑肥を使用して化学肥料の低減を図るなどの環境保全型農業の取組みを支援しています。</p> <p>ご提案の「堆肥センターの設立」につきまして、直接的な計画への反映はできませんが、ご指摘のとおり、CO<sub>2</sub>削減など環境負荷軽減の取組みについては今後も進めていく必要があることから、P45 主な事業「農薬を低減した取組みの推進」を「環境負荷を軽減する取組みの推進」に改め、内容にCO<sub>2</sub>削減に向けた各種取組みを推進することを新たに追記させていただきます。</p> <p>ご意見をいただき、ありがとうございました。</p>